

令和 5（2023）年度 資源評価調査報告書（新規拡大種）

種名	カガミダイ	対象水域	太平洋北部（青森～茨城）
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、岩手県水産技術センター、宮城県水産技術総合センター、福島県水産資源研究所、茨城県水産試験場	協力機関名	

1. 調査の概要

佐井村以東の青森県から福島県にいたる各県が過去に遡ってまとめた主要港の月別漁業種類別水揚げ量をもとに、本種の主要な漁業種を抽出するとともに、海域別や月別の漁獲量を求め、主産地や主漁期を調べた。また、各県の漁獲量集計値の変動から、現在の資源の水準および動向を判断した。

2. 漁業の概要

本種は多様な漁業種によって漁獲されるが、沖合底びき網（以下、「沖底」という）、小型底びき網（以下、「小底」という）および定置網による漁獲量が多い（図1）。漁獲量は岩手県、茨城県が多く（表1）、岩手県では定置網、茨城県では沖底および小底による漁獲が多い（図2）。岩手県、宮城県、茨城県における2000～2022年の漁獲量は4トン（2013年）～30トン（2000年）であった。この3県の漁獲量の動向は類似しており、大きなピークの後に漁獲量が減少するパターンを繰り返している。2013年に過去最低の漁獲量（4トン）を記録して以降は上昇に転じており、2021年には過去最多の2000年に匹敵する漁獲量（30トン）を記録した。2022年の漁獲量は過去7番目の16トンであり、中程度の水準となっている。月別の漁獲量が報告されている岩手県から茨城県の4県では、漁獲量は9月～翌年2月ごろに多い（図3）。なお、この周期性が本種の加入状況や回遊パターンを反映しているものであるかは不明である。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：本種は我が国沿岸においては北海道から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸、北海道から九州南岸の太平洋岸、瀬戸内海、東シナ海大陸斜面域などの水深40～800 m に分布する（中坊・甲斐 2013）。
- (2) 年齢・成長：本種の成長についての詳細は不明である。なお、最大で体長 55 cm に達する（山田ほか 2007）。
- (3) 成熟・産卵：詳細は明らかになっていない。南日本では、1～2月に熟卵を有するとされる（蒲原 1965、山田ほか 2007）。

(4) 被捕食関係:おもに魚類、そのほかにイカ類やエビ類などを食べる(山田ほか 2007、中坊 2018)。また小型個体はミズウオに被食されていた事例がある(久保田 1971)。

4. 資源状態

本種の青森県から茨城県の漁獲量が揃ったのは2012年以降である。したがって、比較的長期データがある岩手県、宮城県、茨城県の2000～2022年の漁獲量を用いて、本種の水準と動向を判断した。なお、前述のとおり3県における主要な漁業種は異なっているものの、その推移は同様の傾向を示しており、2013年以降に増加し、近年は横ばい傾向にある(図4)。このため、本種の水準と動向の判断には3県の全ての漁業種による漁獲量の合計値を用いた。漁獲量の最小値(4トン)と最大値(30トン)の間を3等分し、低中位の境界を13トン、中高位の境界を21トンとした(図4)。2022年の漁獲量は16トンであることから、資源状態は中位と判断した。また、直近5年間(2018～2022年)の漁獲量は横ばい傾向にあることから、動向は横ばいと判断した。

5. その他

資源回復のための取り組みは行われていない。生物特性や資源構造に不明な点が多く、さらなる情報収集が必要である。

6. 引用文献

- 蒲原稔治(1965) かがみだい. In: 岡田 要・内田清之助・内田 亨(編). 新日本動物図鑑 [下]. 北隆館, 東京.
- 久保田正(1971) 駿河湾産ミズウオ (*Alepisaurus ferox*) が捕食していたキアンコウ (*Lophius litulon*) の食餌. 日本プランクトン学会報, **18**, 28-31.
- 中坊徹次(編・監)(2018) 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 小学館, 東京.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃(2013) マトウダイ科. In: 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野. xlix + 2428 pp.
- 山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次(2007) 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野. lxxiii+1262 pp.

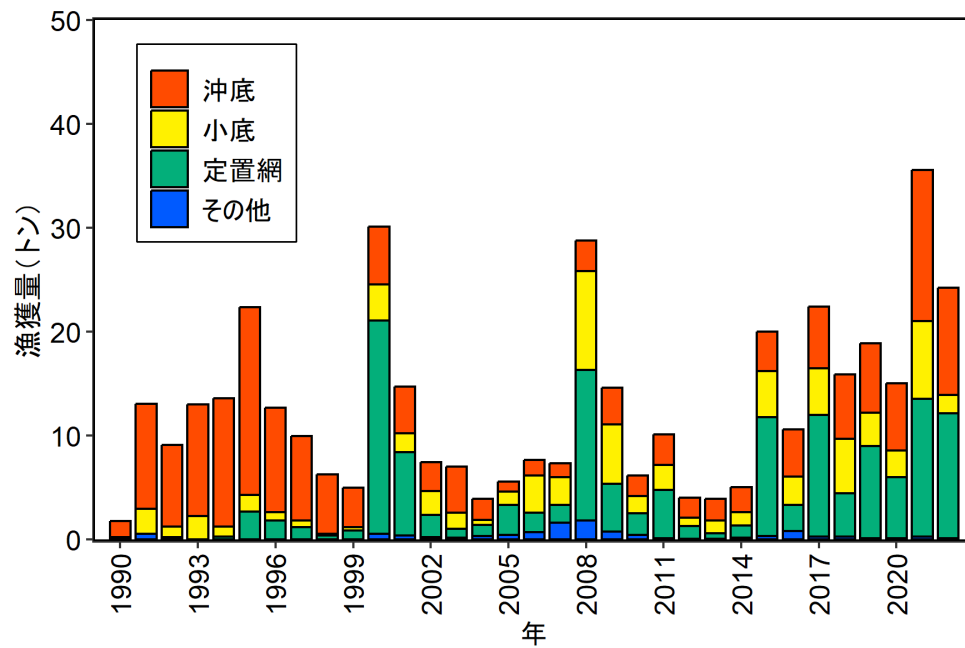


図1. カガミダイの漁業種別漁獲量

集計に用いた期間は県によって異なる（青森県：2007～2022年、岩手県：1994～2022年、宮城県：2000～2022年、福島県：2012～2022年、茨城県：1990～2022年）。

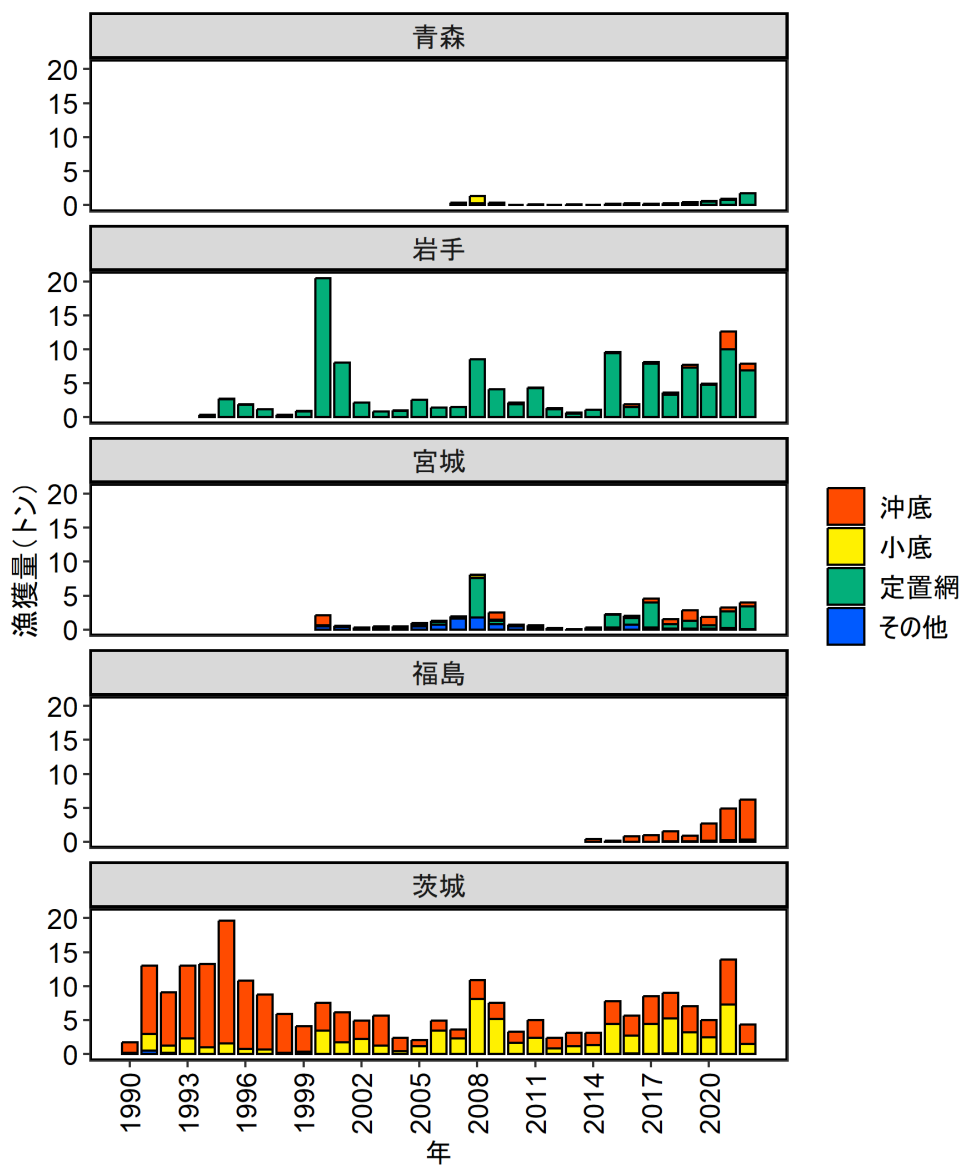


図2. カガミダイの県別漁業種別漁獲量

集計に用いた期間は県によって異なる（青森県：2007～2022年、岩手県：1994～2022年、宮城県：2000～2022年、福島県：2012～2022年、茨城県：1990～2022年）。

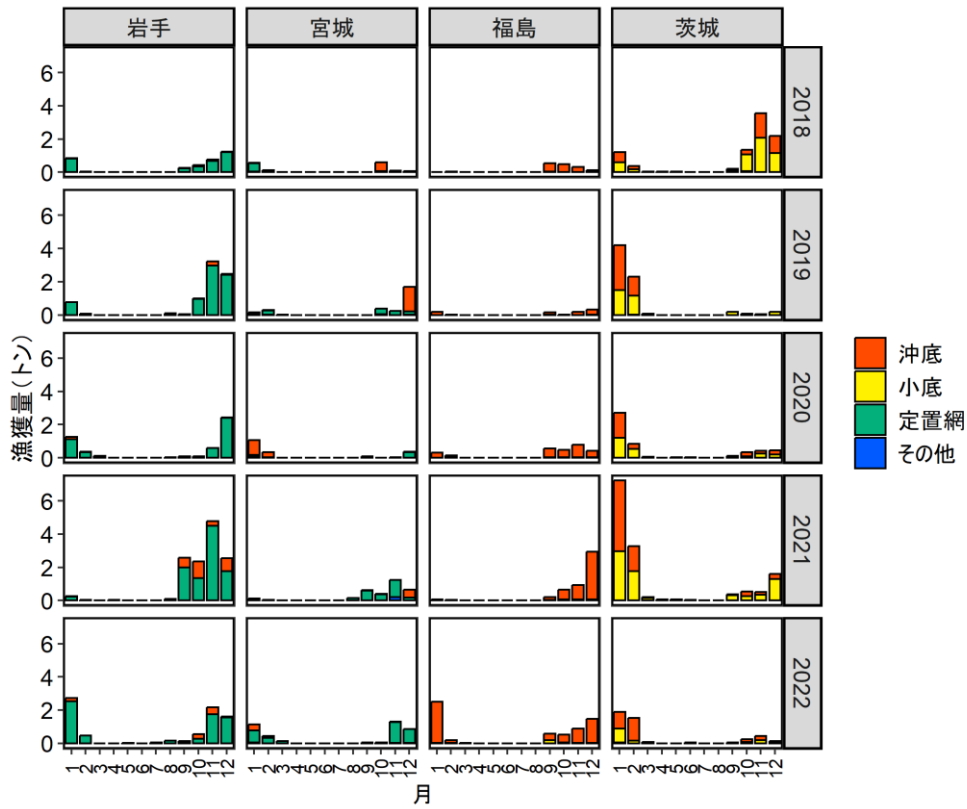


図3. 岩手県～茨城県におけるカガミダイの月別漁業種別漁獲量（2018～2022年）

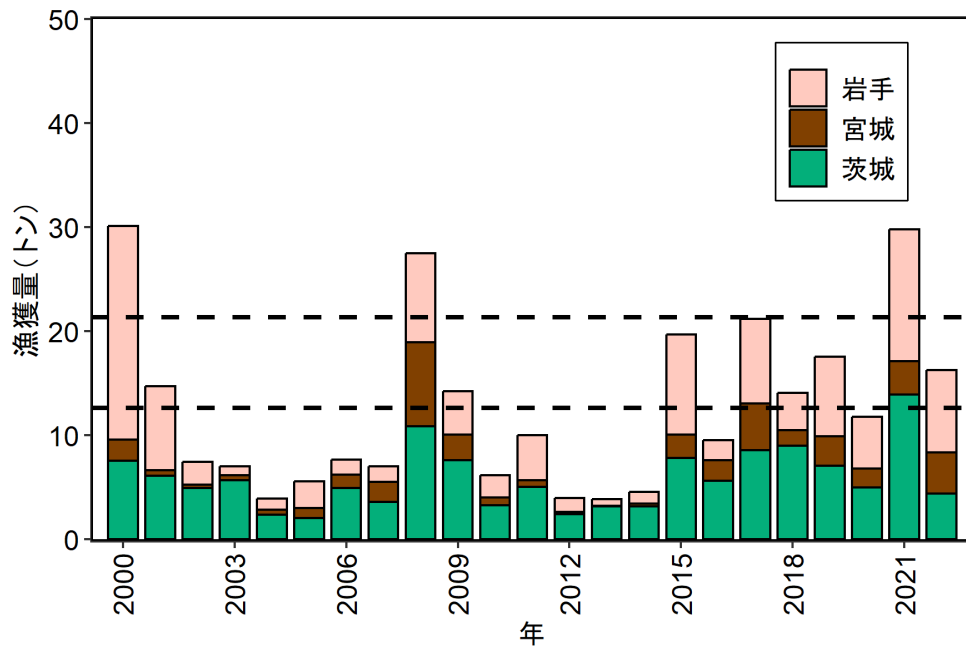


図4. 岩手県、宮城県、茨城県におけるカガミダイの漁獲量の推移
図中の破線は高中位および中低位の境界を示す。

表 1. 県別漁獲量 (トン)

年	青森	岩手	宮城	福島	茨城	合計
1990	-	-	-	-	2	2
1991	-	-	-	-	13	13
1992	-	-	-	-	9	9
1993	-	-	-	-	13	13
1994	-	-	-	-	13	14
1995	-	-	-	-	20	22
1996	-	-	-	-	11	13
1997	-	1	-	-	9	10
1998	-	0	-	-	6	6
1999	-	1	-	-	4	5
2000	-	20	2	-	8	30
2001	-	8	1	-	6	15
2002	-	2	0	-	5	7
2003	-	1	0	-	6	7
2004	-	1	0	-	2	4
2005	-	3	1	-	2	6
2006	-	1	1	-	5	8
2007	0	2	2	-	4	7
2008	1	9	8	-	11	29
2009	0	4	3	-	8	15
2010	0	2	1	-	3	6
2011	0	4	1	-	5	10
2012	0	1	0	0	2	4
2013	0	1	0	0	3	4
2014	0	1	0	0	3	5
2015	0	10	2	0	8	20
2016	0	2	2	1	6	11
2017	0	8	5	1	9	22
2018	0	4	1	2	9	16
2019	0	8	3	1	7	19
2020	1	5	2	3	5	15
2021	1	13	3	5	14	36
2022	2	8	4	6	4	24